

6m の SSB で JCC のススメ

■なぜ JCC なのか

JCC や JCG は、JARL が発行するアワードです。

過去の規約を振り返ると、楽しみながら通信技術を学べる優れた教育システムです。

近年は規約が変わり、教育という面が薄れてしまいました。

通信技術の向上を目指したい方は、ぜひ JCC に挑戦し、合わせて JCG も並行して調整して欲しいと思います。

■なぜ 6m なのか

6m は、バンドの性質により多くのコンディションが体験できます。

HF の様に電離層中心でもなく、UHF 以上の様に直接波や反射波中心の伝搬ではありません。

多様なコンディションが季節や時間で変化し、1 年経験すると通信に自信を持てると思います。

2m でも同じような経験ができますが、6m より直進性に優れ、難しくなると考えます。

HF と高い周波数のいい所取りが 6m なのかもしれません。

6m の経験は、他のバンドでも生かされます。

入門バンドと呼ばれた意味がここにあり、6m を理解できれば、応用が利くようになります

■なぜデジタルモードではないのか

6m では、デジタルモードが人気です。

あえて旧世代となってしまった SSB にこだわる理由は、「人間の耳」を使うことによる通信技術の向上があります。

新しいモードへの挑戦は、先進的なアマチュア無線家にとって正しい道ではありますが、まずはベーシックに SSB で耳を鍛えることから始めることで、長くアマチュア無線を楽しめるようになると思います。

■1つの都道府県で完成させる意味

JCC アワードでは、どこで運用しても 1 市として扱われます。

元々は 1つの都道府県内での運用だけが有効とされました。

バンドごとに交信しにくい地域はあるもので、それを容易にするために移動運用してしまうことは、通信技術の向上にはつながりません。

心を鬼にして、1つの都道府県にこだわってください。

■コンディションを味方につける

1 年間季節を問わず運用してみると、コンディションの推移が理解できてくると思います。

ここまで理解できると、6m の入門が済み、アクティビティを保ってステップアップを図ります。

ここでクラスターの利用はなるべく避けて欲しいと思います。

国内にあるクラスターは、日本全国をターゲットにしたもので、狭いエリアでオープンする 6m では参考程度にしかありません。

ぜひ耳で確認をする習慣をつけてください。

■6mにおけるWACAの価値

6mのSSBモードを使い、1都道府県内で完成したWACAの価値は絶大です。

WAGAも同様です。

特に最後の20市の交信は、偶然に交信する可能性は非常に低くなります。

そこで強い味方になるのが、全国の6mマンです。

共に交信できたことを喜んでくれる仲間です。

WACAの完成が近くなると、同じ都道府県に仲間ができ、さらに全国に仲間ができます。

最高のコミュニティと言えます。

■多くの局が賛同した先にあるもの

6mのSSBで、JCCに挑戦する局が増えることで、バンドのアクティビティが上がります。

にぎやかなバンドには人が集まり、さらに活性化します。

首都圏など人口が多い地域には、様々なエリアから入感があり、交信が楽しくなるでしょう。

首都圏外の地域の局にとって、運用すれば首都圏の局からパイルアップを受け、楽しい運用の時間を過ごせるはずです。

多くの局が6mのSSBでJCCを目指すことで、6mが活況となり、さらにアマチュア無線人口の増大につながります。

またアマチュア無線人口の増加により、業界が活性化し、私たちがより楽しめる環境を作ることができるのではないのでしょうか。